

○ 本校の概要

- ◆教育目標 表裏の子 思いやる子 元気な子 やりぬく子
- ★目指す学校像「子どもたちの笑顔や意欲があふれ、また来たいと思える楽しい学校」 子どもたち一人一人を大切に教育 子どもたちが意欲的に取り組む授業 地域・保護者との連携を深め、交流する学校 全教職員が力を結集して総合力を発揮する学校
- ★特色ある教育活動 ・国際理解教育 ・校内研究「外国語に親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～
- ・オリンピックパラリンピック教育 ・学期ごとの学校公開 ・放課後算数クラブ ・土曜補修教室 ・読書タイム ・完全ノーチャイム ・30分間の休み時間 ・地域班活動 ・洗小江戸しぐさ ・夏休みのわくわくスクール
- ・学校支援地域本部(スクールサポート洗足池) ・スクールバンドの活躍

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学 ぶ意欲を高め、確かな学 力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりを工夫する。	12月に実施する保護者アンケートで、「学習したことを理解している」項目の肯定的回答の割合 4: 95%以上 3: 85%以上 2: 75%以上 1: 75%以下	3	・外国語活動の研究を進め、授業改善を図ってきたことは大きな成果である。今後も改善を図り、外国語活動を本校の特色としたい。 ・算数科では少人数指導、及び補習等で個に応じた指導を進めている。ステップ学習チェックシートは、児童には各単元の確かめプリントの後に見せ、チャレンジまたはフォローアッププリントに取り組ませる。保護者には学期に1回個人面談において成果や課題を確認し、共通理解を図った。 ・「学習したことを理解している」の肯定的評価は昨年度より下がってしまった。どの学年も学力の二極化が見られ、習熟度の低い児童についての割合と保護者アンケートの割合はほぼ一致する。習熟度の低い児童の学力を上げていくことが課題である。また、授業改善プランを「授業に活かす」に対して「おおむねできた」と全教員が答えたものの、若手が多いこともあり今後もOJT研修などで授業力を高めていく必要がある。	・外国語活動は近くに東工大があり、国際色豊かな環境に恵まれていることを活用して授業の改善を図ると共に、洗小の特色を保ってほしい。 ・肯定的評価が昨年度より下がっていることが不思議。外国語活動も素晴らしい取り組み方で、子どもたちも生き生き活動できている様子だし、少人数指導の算数の様子もそれぞれに合った指導で楽しく学んでいた。残念だが気にしないでお願いします。 ・昨年の研究発表会や授業参観などからも外国語活動に力を入れていると感じた。引き続き児童の学力向上に取り組まれることを期待しております。 ・学校が英語教育に力を入れていることがよくあらわれていたと思う。文部科学副大臣の訪問につながったのは大きな成果だと思う。 ・学力向上のための指導方法、授業のすすめ方など工夫が感じられる。公開授業で見せて頂いた時、とても楽しそうに意欲的に学習に取り組んでいると感じた。 ・外国語活動のみならず各授業において前向きに取り組む姿が見られた。教員はそれぞれに持ち味を生かして、指導の工夫をしているように受けとれた。学習をあきらめていないような児童は目につかなかった。
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 子どもたち一人一人が誰にでも明るく、元気に挨拶ができるよう指導を工夫する。	11月に実施する児童の学習・生活アンケートで「毎日学校で生活することが楽しい」項目の肯定的回答の割合 4: 92%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	3	・小中一貫の「生活のきまり」を確認し、保護者とも連携して、振り返りを行うことできまりやルールを守ろうとする意識を高めるようにした。 ・道徳での授業観察、道徳授業地区公開講座などを通して、道徳授業の改善を図ってきた。来年度は、小中一貫教育においても道徳教育を推進する。 ・学習生活アンケート等も活用し、児童の課題把握、組織的に早期対応を図った。 ・登校渋りの児童に対して早期発見、教職員全員で対策に取り組み解決を図り、昨年度よりも不登校児童数が減った。しかし、1月のアンケート「毎日学校で生活することが楽しい」の1月の結果は92%を達成できなかった。一人ひとりの資質や能力の発見に努め、それを引き出す楽しい授業を工夫したり、生活指導を充実させていじめや不登校を防いだりして、「また来たいと思える楽しい学校」を目指す。	・「豊かな心を育む」には道徳教育はもちろん重要なことだが、各家庭と日頃の学校生活の様子について連携を図り、健全な心、豊かな人間性をより高められるよう、今行われている指導を続けてお願いします。 ・各々の個性がありつつ、きちんときまりを守っていてお友達とも仲良く登下校していると思う。挨拶も声を出さなくても目や表情でできる子も増えていく。とても良いと思う。 ・挨拶をはじめとした「生活のきまり」をしっかり意識した指導をされていると思う。 ・今年度から道徳が教科化され、学校公開でよく保護者に説明ができていたと思う。 ・日々の学習、学力の向上だけでなく、豊かな心、自己肯定感に視点を置いた取り組みはとて素晴らしいと思う。登校渋り、いじめについては早期発見が必要だと思う。子どもの変化、SOSを見逃さないよう実態把握に努められていることも、忙しい中、素晴らしい取り組みであり、大切なことだと思う。 ・おだやかに学校生活を送っているように見受けられた。児童同士のかかわりあいも思いやりの心が感じられる場面に出くわし、育ってきていることがわかった。ただし、挨拶については、大きな課題があると感じている。
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 持久力の向上を目指し、年間を通じて持久力タイムや長縄タイムなどを継続する。	12月に実施する保護者アンケートで、「体力の向上と危険防止の方法を身に付けている」項目の肯定的回答の割合 4: 93%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	4	・持久力の向上を目指し、年間を通じて持久走タイムや長縄タイムを継続し(一校一取組・一学級一実践)走ることに意欲を高め、総合的な体力の向上を図った。 ・「体育・健康教育授業地区公開講座」では、講師を招いて持久走の指導や講演を実施し、保護者、地域との連携を図ることができた。それ以外にも外部講師を迎えての授業や講座を年に3回実施し、児童の体力向上を図るとともに、教員の体育の指導力の向上を図った。 ・低学年の体育において、体育指導補助員を入れ、運動の楽しさを味わわせ、運動への関心・意欲を高めるようにした。	・体力向上は学力向上にも繋がると思う。先生方の体育の指導力の向上を図られたこと、目に見えない先生方の努力に頭が下がる思いです。 ・マラソン大会は楽しみにしている。スポーツまつりもとても楽しい。もっともっと頑張ってくれると期待しています。 ・体力向上に合わせて「食育」をさらに取り組まれることを期待しております。 ・寒くても元気に校庭で遊ぶ子供達が印象的だった。来年度の大会で順位を上げたいですね！ ・学力だけでなく体力向上に向け、様々な活動を取り入れていて素晴らしいと思う。 ・楽しく体を動かしている様子をたびたび見えた。休み時間もそれぞれにかかわりあって運動していた。数々の教育活動により、運動する意欲が高まっていると感じられる。
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 経験年数・職層の異なる教員のペアを組み、メンターシップ研修を行うことで、メンターは学習指導力を、メンターは指導・助言の能力を高める。	学校公開日の保護者アンケートで「分かりやすい授業をしている」「活動が充実している」の2項目のA評価 4: 60%以上 3: 55%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	4	・平成26年度から国際理解教育を推進し5年目の今年度は、「外国語に親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」を研究主題に外国語活動での研究発表を実施することができた。 ・職層・経験の異なるペアで行うメンターシップ研修を実施し、授業力の向上を図っている。今後も方法を改善しながら継続する。 ・スキルアップ研修会(学習指導や校務の遂行に必要な知識の伝達を若手教員に行う研修/月1回)を開催し、継続する。 ・他校の研究発表、指導教諭の模範授業等に全教員が参加(年間1回以上)し、学んだことについて報告を行った。 ・タブレットやICT機器、その他のメディアを活用して、目的に合わせた情報の収集・整理ができるとともに、それを生活に役立てていくことができるように指導する。 ・学校公開での保護者アンケートのA評価が1,2学期共に60%を超えた。1学期より2学期の評価が下がってしまったのは残念だったが、この成果指標にして3年以上たつが、A評価だけで60%を超えたのは初めてのことである。	・大変にきめ細かい配慮されていて、環境としてはとても良いと思う。先生方もとても積極的な感じがする。 ・タブレットやICTを積極的に活用されている印象をもった。今後もこうした機器を工夫活用され、児童の習熟度向上につなげていただきたい。 ・この点については私からは見えにくい点だが、みなさん教育に真摯にとりくんでいただいていると感じている。 ・初めて小学校の研究発表に参加させて頂いた。外国語活動を通して、児童の考える力、工夫する力、応答的対話の力が身につけていると感じた。 ・研修場面は見えていないが、研究発表会の様子をとっていても、それが生かされていると感じることができた。児童がICTを活用する授業も見ることができ、効果的に計画が立てられ、実践につながっていることがうかがえた。
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりたい。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。 東京工業大学・地域と連携した教育活動を充実させる。	12月に実施する保護者アンケートで、項目「教育活動に地域力を生かしている」の肯定的回答の割合 4: 95%以上 3: 90%以上 2: 80%以上 1: 70%以上	4	・学校だより、保健・給食などの便りを毎月1回発行し、ホームページにも挙げた。HPが改善されたので、教育活動についてホームページに公開し、積極的に情報を発信していきたい。 ・SSS(学校支援本部)のコーディネートにより、読み聞かせや外国語活動への授業支援などのボランティアが学校教育を支えてくれた。今後も地域人材を活用した授業を推進し、教育活動を一層充実させる。 ・東京工業大学との交流を1年に5回行い、子どもたちの外国語活動の活用、発信の場となった。今後も、発展・継続させる。 ・「伝統・文化教室」の様々な取組も今後も継続していきたい。	・学校、家庭、地域がホームページを通じての情報により教育活動がより充実されることは、素晴らしいと思う。地域の一人として今後どのようにかかわっていけばよいか課題となりそう。 ・この活動をずっと維持していただきたい。 ・引き続き家庭や地域と連携した学校運営をよろしくお願いいたします。 ・よくできていると感じる。特に東工大との連携ではうまく本校の英語教育と連携できていると感じた。 ・地域力の活用、地域の方々との連携はとても大切だと感じている。地域に根ざしていることを実感している。 ・学校だより、HP等により、教育活動の情報を提供するとともに、地域の資源を効果的に活用するよう努力してほしい。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載